

## 学校運動部活動の戦後史（下）

### ——議論の変遷および実態・政策・議論の関係——

中澤 篤史

本研究の目的は、中学・高校の運動部活動の戦後史を、終戦直後から2000年代までを対象に、実態・政策・議論の変遷と関係に注目しながら記述することである。本研究後半部分にあたる本稿は、議論の変遷を記述した後、実態・政策・議論の関係と時期区分について論じた。

本研究の結論として、運動部活動の戦後史を、①民主主義的確立期（1945年～1953年）、②能力主義的展開期（1954年～1964年）、③平等主義的第一次拡張期（1965年～1978年）、④管理主義的第二次拡張期（1979年～1994年）、⑤新自由主義的／参加民主主義的再編期（1995年以降）、の5つに時期区分した。本研究が示唆するのは、運動部活動の戦後の拡大過程が、学校教育の民主主義化・平等主義化・管理主義化と密接に連動してきた可能性である。言い換えると、運動部活動がこれほどまでに大規模になった歴史的背景には、民主主義的な教育を実現するため、平等主義的な教育を実現するため、管理主義的な教育を実現するために、スポーツが必要とされたからであると示唆される。一見すると教育とは無関係に思われるスポーツが学校の中で行われ、教師の手によって指導されてきた背景には、こうした日本特殊な歴史があるといえる。